

特許協力条約

PCT

REC'D 21 APR 2005

WIPO PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)
[PCT36 条及び PCT 規則 70]

出願人又は代理人 の書類記号 PCT02176	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/003270	国際出願日 (日.月.年) 12.03.2004	優先日 (日.月.年) 25.03.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ F15B15/10		
出願人 (氏名又は名称) 株式会社 日立メディコ		

- この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☐ 附属書類は全部で ページである。
 - ☐ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。 (実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 02.11.2004	国際予備審査報告を作成した日 06.04.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 齊藤 公志郎	3Q 3321
電話番号 03-3581-1101 内線 3381		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第_____ページ、出願時に提出されたもの

第_____ページ*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

第_____ページ*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第_____項、出願時に提出されたもの

第_____項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第_____項*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

第_____項*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第_____ページ/図、出願時に提出されたもの

第_____ページ/図*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

第_____ページ/図*、_____付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第_____ページ

☐ 請求の範囲 第_____項

☐ 図面 第_____ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第_____ページ

☐ 請求の範囲 第_____項

☐ 図面 第_____ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 7-17	有
	請求の範囲 1-6	無
進歩性 (IS)	請求の範囲	有
	請求の範囲 1-17	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-17	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明 (PCT規則 70.7)

文献1: JP 60-139904 A (株式会社ブリヂストン)

1985.07.24, 第6欄第4-13行, 第7欄第5-16行,
第9欄第7-16行, 第2図

文献2: JP 60-132103 A (ミルコ クコルジ)

1985.07.15, 第13図

文献3: 日本国実用新案登録出願3-58474号 (日本国実用新案登録出願公開5-88523号) の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録したCD-ROM (株式会社飯倉総合研究所), 1993.12.03, 全文, 第1図

文献4: JP 7-204233 A (河田一弘) 1995.08.08,
段落【0018】-【0025】, 第2図

文献5: WO 01/68028 A2 (ORTHOLOGIC CORP.)
2001.09.20, 第1, 5, 6図

請求の範囲1-6に係る発明は、文献1の第6欄第4-13行, 第7欄第5-16行, 第9欄第7-16行及び第2図に、当業者にとって自明の事項として記載されているので、新規性、進歩性を有しない。

請求の範囲7, 8に係る発明は、文献1と文献2とにより進歩性を有しない。文献2の第13図により教示されたエンクロージャを文献1に用いることは、当業者にとって容易である。

請求の範囲9-12に係る発明は、文献1と文献3とにより進歩性を有しない。文献3の第1図により教示された装着具に文献1のアクチュエータを用いることは、当業者にとって容易である。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 13, 14, 16 に係る発明は、文献 1 と文献 4 とにより進歩性を有しない。文献 4 の段落【0018】－【0025】及び第 2 図により教示された装置に文献 1 のアクチュエータを用いることは、当業者にとって容易である。

請求の範囲 15 に係る発明は、文献 1 と文献 5 とにより進歩性を有しない。文献 5 の第 1, 5, 6 図により教示された装置に文献 1 のアクチュエータを用いることは、当業者にとって容易である。

請求の範囲 17 に係る発明は、文献 1 と文献 4 及び 5 とにより進歩性を有しない。文献 4 の段落【0018】－【0025】及び第 2 図により教示された装置に、文献 1 のアクチュエータ及び文献 5 の第 1, 5, 6 図に教示された装置を用いることは、当業者にとって容易である。